

キャリアに拓く 2年生の活動



鳥取大学附属という環境を生かして子供のキャリア形成を目指していく活動、「キャリアに拓く」。2年生は、11月下旬から12月中旬にかけて、地域学部先生方の研究室や大学生協、附属図書館に行き、お話をうかがったり体験をさせていただいたりして学習を深めました。

大学生協では、食堂や売店などを見学したり、職員の方に季節に合わせたメニューやフェアの企画などのお話を聞いたりしました。また、附属図書館では、図書館で働くようになったきっかけや仕事でうれしいときなどの話を聞いたり、館内を案内してもらったりしました。様々な設備を見て、働く方々の仕事に対する思いや工夫をお聞きして、大学のいろいろな施設について視野を広げました。



社会専門の先生の実験室では、先生が今まで訪問した約40か国中、いくつかの国の人々の暮らしについて話を聞きました。各国の気候・住まい・食生活などの特徴を分かりやすく教えていただきました。海外の暮らしを研究しながら、鳥取の人々の生活をよりよくできるヒントはないかと模索されていることも分かりました。

理科専門の先生の実験室では、水・重曹・クエン酸の液に、紫キャベツから抽出した液を入れ、液の色の変化を実験させてもらいました。先生の専門的な知識に驚いたり憧れたりするとともに、3年生から始まる理科の学習を楽しみにする子供がいました。



保育専門の先生の実験室では、保育士を目指す学生がどのような物（ピアノ・おもちゃ・絵本・赤ちゃんの模型人形など）を使用しながらどんなことを学んでいるかを想像したり、教えてもらったりしました。また、先生は人間の発達心理学を研究され、赤ちゃんの頃からの研究を大事にされていることについても聞きました。保育士になりたいと思っていた子供もいて、大学生になって先生のもとで学びたいという思いを抱いていました。

音楽専門の先生の実験室では、世界にはたくさんの楽器があること、先生が音楽を好きになった理由などを教えていただきました。先生の素敵なピアノ演奏をきかせていただき感動した子供がたくさんいました。ジングルベルの楽譜をいただき、先生と子供で楽しく歌ったり演奏したりして、音楽の魅力を体感しました。

書道専門の先生の実験室では、書道に使用される筆・墨などの道具を見せていただき、練習の際には一日にたくさんの枚数を書いて練習されていることなどを教えていただきました。先生は「私の仕事は字で心を形にすることです。」とおっしゃいました。子供たちは実際に筆で色紙に字を書かせてもらい、先生に一人一人が書いた字を褒めていただきました。

考古学専門の先生の実験室では、昔の土器などの道具のことを教えていただきました。日本だけでなく、外国の土器のことも研究されていることも分かりました。鉄がなかった頃には、石を研いで斧や矢じりを作り、物を切っていたことなどを通し、今と昔の道具のちがいをすることもできました。